

平成 2 3 年 度
事 業 報 告 書

公益社団法人日本パブリックゴルフ協会

平成23年度事業報告書

目次

	(ページ)
はじめに	2
平成23年度事業活動報告	
1. 公益目的事業 1. ゴルフ競技会開催事業	9
2. 公益目的事業 2. ゴルフ普及振興事業	20
3. 収益事業 ハンディキャップ普及振興事業	24
4. その他事業 助成金事業	25
むすび	26

はじめに

I. 公益社団法人の認定

現在我が国では、平成20年12月1日に公益法人制度改革関連3法が施行され、公益法人制度改革が進められているが、当協会は平成22年3月19日付で公益社団法人の認定を受けた。

昭和37年5月、関東地区のパブリック8コースを発起人として、「関東パブリックゴルフ協会」を創立、ゴルフの普及振興、ゴルフ競技会の開催、統一ハンディキャップの普及、並びにゴルフに関する調査・研究等を事業目的に掲げ、国民の健康の保持増進、余暇活動の充実等豊かな国民生活の実現への寄与を目的として活動してきた。その後、昭和39年3月に全日本組織「日本パブリックゴルフ協会」に改組した。また、平成6年3月には通商産業省(現:経済産業省)より、社団法人の認可を得て、「社団法人日本パブリックゴルフ場事業協会」に改組した。

更に、平成22年3月には国が所管するスポーツ団体として、第1号の「公益社団法人」の認定を受け、協会名称を平成22年4月1日付で「日本パブリックゴルフ協会」に復帰改称した。今後も協会創立の理念・精神を引き継ぎ、公益目的事業を通じて、民による公益増進への積極的な参画、また社会貢献を果たすべく全力を傾注したいと考えている。

II. 「今後の事業活動基本方針」の決定

1. 会長諮問機関の発足

前述の通り、平成22年3月19日付で公益社団法人の認定を受けた。この公益法人の認定、並びに創立50周年を迎えるに当たり、今後の事業活動の基本方針策定の必要性から、「特命プロジェクト委員会」(会長の諮問機関)が平成22年11月に設置され、同委員会が今後の事業活動基本方針を取り纏めた。

その答申は、平成23年6月13日開催の平成23年度第1回通常社員総会において、「今後の事業活動基本方針」として決定された。

2. 「今後の事業活動基本方針」(要約)

タイトルは「全てのゴルファーとゴルフ普及のための活動の推進」、副題を「公益法人の社会的使命:公益の増進への寄与」とし4部構成とした。以下にその要約を記す。

～ 全てのゴルファーとゴルフ普及のための活動の推進 ～
(公益法人の社会的使命:公益増進への寄与)

I. 全てのゴルファーのための活動

1. 競技会の一層の活性化(スクラッチ、アンダーハンディ競技) ～質的向上と量的拡大～

(1)スクラッチ競技

- ①競技運営方法・コースセッティングの統一、標準化を図り競技の質向上
- ②スポンサー募集
- ③参加者募集の工夫・施策の検討
- ④競技会ステータスの向上施策 :さすがPGSの競技会との評価
- ⑤キャンセル防止策として、競技の土日開催への柔軟的移行を目指す

(2)アンダーハンディ競技

- ①競技参加率向上のため、開催時期を通年型(毎年度4月スタート ⇒翌年3月)へ変更
- ②ハンディキャップ取得者の競技に対する意識調査の実施・分析
- ③ハンディキャップ取得者であれば、誰でも参加できるアンダーハンディ競技方式の開発
- ④スポンサーの募集 ⇒冠大会、賞品の品揃え等バックアップ期待

2. JGAハンディキャップの普及と信頼性の向上 ～より公正、公平なハンディキャップの提供～

- (1)ハンディキャップの信頼性向上のための当協会独自の運用
 - ①PGS会員登録者の JGAハンディキャップを公正・公平に管理する
 - ②プレーヤに対し全スコアカード入力 of 教育指導・啓蒙
 - ③スコアカード入力は加盟コース何処でも可能とする
 - ④以上の措置を外部に発信し、当協会管理の信頼性をアピール
- (2)競技出場時のハンディキャップの確認・管理(アンダーハンディ競技会の公正運営)
 - ①当協会独自の運用、確認方法の継続により、当協会主催競技会への参加者が、PGS会員登録者に限られることはやむを得ない
 - ②将来的にはJGAクラブ会員の、アンダーハンディ競技会取込も
- (3)ハンディキャップ独自運営のマニュアル化、ハンディキャップ告知方法統一
 - ①厳格なJ-sysの管理・運営によるハンディキャップの信頼性維持確保のためには、独自運営マニュアルの制定が必要

II. ゴルフ普及のための底辺拡大活動

1. ゴルフ人口拡大企画を協会事業として位置付け、普及推進
 - ～ゴルフに興味のある層の取り込み～
 - (1)ゴルフ未経験者へのゴルフ体験の協力や、ジュニア・一般対象のゴルフ教室の開催協力などでゴルファーの増加を図る
 - (2)メンバーコースと違い、自由度の高いパブリックコースの特性を活かす
2. ゴルフ初心者対策 ～ハンディキャップ取得者の増加～
 - 初心者に対してハンディキャップは現在のゴルフ技量を表す数値
 - ⇒ゴルフ技量上達のバロメーターであることに重点を置いて、ハンディキャップ取得者の増加を図る ⇒将来的な競技参加者予備軍としての期待感

III. 協会基盤の整備、全会員参加型の協会運営のための活動

1. 協会基盤の整備と会員の増強施策
 - ～協会加入メリットの明確化と会員の帰属意識向上～
 - ～会員増加施策と業界内地位、発言力アップ～
 - (1)現状パブリックコース約300の内の協会加盟は90コース
 - (2)何れパブリック・メンバーコースの垣根は実態的に解消の方向に
 - (3)種々ある協会加入メリットの明示 ～会員増加推進施策～
2. 委員会中心型の協会運営体制へシフト ～委員会主導の協会運営へ～
 - (1)全会員参加型協会運営体制へ ⇒会員の帰属意識、一体感の向上
 - (2)役員人事のクリーン化、任期の制定
3. 広報機能の強化と情報収集及び情報発信
 - (1)協会、パブリックコースに対する評価・地位・認知度の向上
 - (2)広報機能の充実と協会事業活動、公益目的事業の積極的開示、PR
 - (3)スポンサー広告(共同広告主)の取込
 - (4)情報収集と発信 ～協会活動のアピール～
 - (5)ゴルファーが知りたい、または知って欲しい情報を提供する

IV. 業界他団体と連携のための活動

1. JGA及び8地区連盟との連携の在り方
2. GMAC(ゴルフ市場活性化委員会)との連携の在り方
3. 海外戦略展開のための連携
 - (1)ゴルフのオリンピック採用

- | |
|--|
| (2)全米パブリック・リンクス、世界ジュニア大会の基本的取り組み方針
(3)「ゴルフ場を観光資源」の観点からの動きへの対応 |
|--|

Ⅲ. 創立50周年記念事業

1. 協会史「PGS50年のあゆみ」発刊

平成24年度は創立50周年と言う記念すべき節目年を迎える。平成21年度第4回理事会(平成22年3月18日開催)において、記念事業として協会史の製作を決定し、「年史製作委員会(委員長:藤下総務委員長)」を設置した。平成22年度より、本格的に協会史「PGS50年のあゆみ」の製作を進めてきたが平成24年5月に発刊した。当協会史を通して、これまで当協会事業に携わった諸先輩の偉業を称えらるとともに、今日のゴルフ界を支える関係諸団体の皆様に、ご高覧いただければ幸甚である。

2. 協会創立50周年記念パーティー

創立50周年を記念して、平成24年6月11日に八重洲富士屋ホテルに於いて、「創立50周年記念パーティー」を開催予定である。

3. 全日本パブリック選手権のTV放映

創立50周年を記念して、平成24年度競技全日本パブリック選手権の全日本は、紫あやめ36(千葉県)、また全日本女子パブリック選手権の全日本を、八千代ゴルフクラブ(千葉県)にて開催する。両コースは当協会創立時の発起人コースであり、創立50周年という節目の年に、いま一度協会創立の原点に戻る意味で、発起人コースを舞台に全日本パブリック選手権を開催し、その競技模様をTV放映予定である。

Ⅳ. 東日本大震災に対する復興支援活動

1. ゴルフ業界の復興支援活動

平成23年3月に発生した未曾有の東日本大震災は、東北地方を中心に大きな被害をもたらした。ゴルフ業界の東日本大震災復興支援活動は、昨年日本ゴルフサミット会議が中心となり、他にゴルフ4団体(*)の参画を得て復興支援活動をスタートした。平成23年4月4日にゴルフ界20団体の代表者が一堂に会して、「日本ゴルフ界合同・震災復興支援チャリティプログラム」として「グリーン・ティ・チャリティ(GTC) ～日本のゴルフが、日本のチカラに～」と銘打った復興支援プログラムをスタートした。日本のゴルフ界団体が大同団結したのはゴルフ界始まって以来であり、義援金総額50億円を目標として、3か年間に亘る息の長い復興支援活動を現在も継続中である。

(注)GTCに参加の日本ゴルフサミット会議以外のゴルフ界4団体

日本ゴルフ場支配人会連合会(平成24年1月開催の日本ゴルフサミット会議において、日本ゴルフサミット会議加入が承認され、現在はサミット会議のメンバー)、日本学生ゴルフ連盟、日本高等学校ゴルフ連盟(高ゴ連)、NPO 法人日本ジュニアゴルファー育成協議会(JGC)

2. 当協会の復興支援活動

東日本大震災直後の平成23年3月17日に、平成22年度第4回理事会を開催したが、公益社団法人の立場から、社会貢献活動の一環として東日本大震災の復興支援は責務である、との緊急動議が決議され義援金募集活動を開始した。その後、4月には前述の通り、日本ゴルフサミット会議を中心としたゴルフ界団体の復興支援活動(GTC)がスタートした。当協会の義援金募集活動はGTCの一環として位置付け、本年度も活動を継続中である。

なお、阪神・淡路大震災(平成7年1月17日)の際は、(1)第29回全日本パブリック選手権の参

加料より1百万円を、参加ゴルファーの善意の結晶として「読売新聞社・読売光と愛の事業団」を通じて、(2)日本ゴルフ関連団体協議会の構成員として、総額5百万円の内、当協会負担金50万円を義援金として寄付した。

東日本大震災の当協会への影響は甚大なものがあり、特に競技参加者数に顕著に表れた。震災直後は、ゴルフどころではないとの世の中のゴルフ自粛の風潮から、競技が開催できるのか懸念されたが、その後の世の中の落ち着きとともに開催に漕ぎ着けることができたものの、パブリック選手権の参加者人数は前年度対比で1,726名減少(▲19.6%)の7,075名まで落ち込んだ。(パブリック選手権の最盛期は、平成14年度から18年度の5年間で参加者人数は、毎年一万人台をキープした)。一方、シニア・ミッドアマ選手権は何とか前年度実績比微減[シニア:62名(▲2.0%)減少、ミッドアマ:72名(▲1.2%)減少]と健闘したものの、パブリック選手権の不振は何ともし難く、収支・財政面で甚大な影響が生じた。

V. 事業目的、事業の種類並びに事業体系

1. 事業目的

当協会は昭和37年に創立され平成24年度に度創立50周年を迎えるが、今後も国民的スポーツであるゴルフの普及振興を通じて、国民の健康の保持増進、余暇活動の充実、青少年の健全な育成等豊かな国民生活の実現に寄与したいと考えている。わが国のゴルフ人口は約一千万人と言われ、ゴルフはまさに国民的スポーツとして、充実した余暇活動の一助として男女を問わず、ジュニアから高齢者に至るまで幅広く愛されている。今後ますます高齢化社会が進展していく中において、「余暇活動の充実」「健康の保持増進」は重要なテーマと思われる。

2. 事業の種類

(1) 公益目的事業(定款第4条)

- ① ゴルフの普及振興、ゴルフ競技会の開催、並びに技術向上の機会提供事業
- ② ゴルフに関する調査・研究、及びセミナー・研修会の開催事業
- ③ ゴルフ関係諸団体との交流、連携を通じてのゴルフ普及振興事業
- ④ ゴルフの普及振興のため機関紙、及び学術図書の発行事業

(2) 収益事業等(定款第5条)

- ① 公平な統一ハンディキャップの普及振興事業
- ② ゴルフ関係諸団体に対する助成金支出事業

3. 事業体系

【公益目的事業 1】 ゴルフ競技会開催事業	I.スクラッチ競技
	1. 全日本パブリックアマチュアゴルフ選手権競技
	2. 全日本女子パブリックアマチュアゴルフ選手権競技
	3. 全日本シニアパブリックアマチュアゴルフ選手権競技
	4. 全日本女子シニアパブリックアマチュアゴルフ選手権競技
	5. 全日本ミッドシニアパブリックアマチュアゴルフ選手権競技
	6. 全日本パブリックミッドアマチュアゴルフ選手権競技
	II.アンダーハンディ競技
	1.アンダーハンディ競技(予選): (1)PGSスポンサー杯 (2)PGSハンディ杯
	2.アンダーハンディ競技(決勝): (1)ダンロップ杯 (2)ブリヂストン杯 (3)グランドマンズリー
	3. PGSドリーム・エイジゴルフ大会
	4. PGS西日本月例杯

	5. PGS中部日本地区月例杯 :みんなでうきうき旅ゴルフ
	6. PGS東日本クラブ対抗戦
	7. PGS東日本プロ・アマチャレンジ
【公益目的事業 2】 ゴルフ普及振興事業	1. セミナー・研修事業
	2. 交流・協力事業
	3. 調査・研究事業
【収益事業】 ハンディキャップ普及振興事業	1. 公平な統一ハンディキャップの普及振興事業
	2. コースレート査定事業
【その他事業】 助成金事業	1. 業界2団体に対する助成金事業

VI. 会議

1. 通常社員総会

平成23年度通常社員総会は、平成23年6月13日八重洲富士屋ホテル(東京都中央区八重洲2-9-1)にて開催し、下記事項が議決承認された。

(審議事項)

第1号議案 平成22年度事業報告(案)承認の件

第2号議案 平成22年度財務諸表及び附属明細書並びに財産目録(案)承認の件

第3号議案 今後の事業活動基本方針(案)承認の件

第4号議案 「同一経営母体正社員」の決議権の運用取扱(案)承認の件

(報告事項)

第1号議案 平成23年度事業計画書報告の件

第2号議案 平成23年度補正収支予算報告の件

2. 臨時社員総会

平成23年度臨時社員総会は、平成23年12月15日に開催し下記事項が議決承認された。

(審議事項)

第1号議案 理事1名選任の件

3. 理事会

題記会議を下記の通り開催した。

	開催年月日	開催場所
第1回	平成23年 6月13日	八重洲富士屋ホテル
第2回	平成23年 9月 1日	ホテル銀座ラフィナート
第3回	平成23年11月10日	メルパルク名古屋
第4回	平成24年 3月15日	小山パレスホテル

4. 合同委員会

題記会議を下記の通り開催した。

	開催年月日	開催場所
第1回	平成23年 6月13日	八重洲富士屋ホテル
第2回	平成23年 9月 1日	ホテル銀座ラフィナート
第3回	平成23年11月10日	メルパルク名古屋
第4回	平成24年 3月15日	小山パレスホテル

5. 予算編成正副委員長会議

題記会議を下記の通り開催した。

	開催年月日	開催場所
第1回	平成24年 2月14日	大阪ガーデンパレス

6. 財務委員会

題記会議を下記の通り開催した。

	開催年月日	開催場所
第1回	平成24年 2月24日	協会事務局

7. 事業・競技・ハンディキャップ合同委員会

題記会議を下記の通り開催した。

	開催年月日	開催場所
第1回	平成23年 8月25日	メルパルク名古屋

8. スポンサー会議

題記会議を下記の通り開催した。

	開催年月日	開催場所
第1回	平成23年10月24日	ホテル銀座ラフィナート

Ⅶ. 監査

平成23年5月27日 平成22年度決算報告書の監査実施(於:協会事務局)

Ⅷ. 会員数

1. 平成24年3月31日現在の会員数

(1) 正会員(社員) : 83団体

東日本地区	中部日本地区	西日本地区	北海道・青森地区
30	11	37	5

(2) 賛助会員 : 6団体

2. 平成23年度会員入退会の状況

(1) 入会正会員(社員) : なし

(2) 退会正会員(社員) : 6団体

東日本地区	西日本地区
TOSHIN TOKYO North Hills Golf Course 榛名の森カントリークラブ	シーサイドゴルフパーク坂出 阿蘇リゾートグランヴィリオホテルゴルフ場 入来城山ゴルフ倶楽部 セントレジャーゴルフクラブ城島高原

(3) 賛助会員 : 入退会なし

3. 正会員(社員)及び賛助会員の推移

単位: 団体

年度	正会員(社員)			賛助会員		
	入会	退会	団体数	入会	退会	団体数
平成16年度	5	4	84	0	1	5
平成17年度	3	3	84	0	1	4

平成18年度	4	3	85	1	0	5
平成19年度	8	5	88	0	1	4
平成20年度	2	3	87	1	1	4
平成21年度	4	1	90	2	0	6
平成22年度	2	3	89	0	0	6
平成23年度	0	6	83	0	0	6

4. 正会員(社員)の変動

(1) 運営会社変更

正会員名	新運営会社	旧運営会社
セントレジャーゴルフクラブ札幌	株式会社マインズコーポレーション	株式会社セントレジャー・オペレーションズ
前橋ゴルフ場	群馬県企業局	ライジングプロモーション株式会社
ウインザーパークゴルフ・アントカントリークラブ	株式会社サンクチュアリゾート	日本森林工営株式会社
宜野座カントリークラブ	株式会社川嶋	エートス・ジャパン
ベアスハウ ジャパン カントリークラブ	株式会社春日ゴルフ	イトーピアゴルフ滋賀株式会社

(2) 正会員名称変更

新会員名	旧会員名
琵琶湖レークサイドゴルフコース	琵琶湖大橋ゴルフコース
ダイナスティゴルフクラブ	セントレジャーゴルフクラブ札幌
つるやカントリークラブ 西宮北コース	西宮北ゴルフコース
亀山ゴルフクラブ	セントレジャーゴルフクラブ亀山
紫あやめ36	紫カントリークラブ あやめコース

5. 正会員(社員)の勧誘活動

当面100正会員を目標に新規正会員の勧誘を推進している。平成23年度は6正会員が退会し、年度末現在の正会員(社員)数は83団体である。業界の種々の事情から一進一退の状況にあるが、公益社団法人認定を梃子に、長年の念願である正会員100団体の実現を目指して、今後とも勧誘活動を推進する。

IX. 主たる事務所及び事務局の構成

1. 主たる事務所

東京都中央区銀座1丁目19番16号 銀座昭和ビル

2. 事務局の構成(平成24年3月31日現在)

職員数 6名

平成23年度事業活動報告

■公益目的事業1. ゴルフ競技会開催事業

I. 概況

当協会はゴルフの普及振興のためにゴルフ競技会開催事業を行っている。競技会の参加資格は
1. アマチュアゴルファーである、2.ハンディキャップは20.0程度以上の方が望ましい、の2点である。言わばアマチュアゴルファーであれば、誰もが日頃の研鑽の腕試しの場として出場できる門戸の開かれた競技会である。

平成23年度の競技別参加者数は下表の通り、3大メイン競技のスクラッチ競技「パブリック選手権、シニア選手権、ミッドアマ選手権」は16,016名(前年度比▲1,860名、▲10.4%)、アンダーハンディ競技は19,534名(同▲+475名、+2.5%)、合計35,550名(同▲1,385名、▲3.7%)の参加を得た。

II. 開催競技及び平成23年度参加者数

単位:名

競技会(略称)	参加者数
I.スクラッチ競技	
1.第45回 全日本パブリックアマチュアゴルフ選手権競技(パ選)	6,313
2.第11回 全日本女子パブリックアマチュアゴルフ選手権競技(女子パ選)	762
3.第17回 全日本シニアパブリックアマチュアゴルフ選手権競技(シニア)	1,631
4.第17回 全日本女子シニアパブリックアマチュアゴルフ選手権競技(女子シニア)	388
5.第 8回 全日本ミッドシニアパブリックアマチュアゴルフ選手権競技(ミッドシニア)	1,018
6.第 5回 全日本パブリックミッドアマチュアゴルフ選手権競技(男子ミッドアマ)	5,281
7.第 5回 全日本パブリックミッドアマチュアゴルフ選手権競技(女子ミッドアマ)	623
小 計	16,016
II.アンダーハンディ競技	
1.アンダーハンディ競技(予選) : (1)PGS スポンサー杯 (2)PGS ハンディ杯	6,562
2.アンダーハンディ競技(決勝) : (1)ダンロップ杯 (2)ブリヂストン杯 (3)グランドマンズリー	1,262
3.PGSドリーム・エイジゴルフ大会(予選) : (1)個人戦 (2)団体戦	595
4.PGSドリーム・エイジゴルフ大会(決勝) : 個人戦	118
5.PGS西日本月例杯	10,054
6.PGS中部日本月例杯(みんなであそびき旅ゴルフ)	567
7.PGS東日本クラブ対抗戦	376
8.PGS東日本プロ・アマチャレンジ	—
小 計	19,534
合 計	35,550

※平成23年度は、PGS東日本プロ・アマチャレンジは開催休止。

III.平成23年度競技の改善点

1.他団体からのシード権付与

平成23年度は、次の団体からシード権が付与された。

(1)新規シード権

日本ゴルフ協会	JGA杯J-sysゴルフ選手権 男女ABクラス各1名
---------	----------------------------

中部ゴルフ連盟	<ul style="list-style-type: none"> ・中部ミッドアマチュアゴルフ選手権決勝 1位 ・中部ミッドアマチュアゴルフ選手権予選 2～20位
---------	---

2. 2日間競技の初日カット廃止

平成23年度競技より、下記選手権競技の地区決勝、並びに全日本の2日間競技はすべて初日カットを廃止し、36ホールストロークプレーとした。

- (1)パブリック選手権 :地区決勝、全日本
- (2)パブリックミッドアマ選手権(男女両部門) :地区決勝、全日本
- (3)シニア・女子シニア・ミッドシニアパブリック選手権 :地区決勝、全日本

3. 「中部日本女子パ選」開催方法の変更

従来、予選を複数会場にて開催、決勝進出者を決定し地区決勝を開催していたが、平成23年度より、中部日本地区女子パブリック選手権競技を、1日目に予選、2日目(カットオフ後)に地区決勝を同一会場にて連日開催する方法に変更した。

4. シニア3競技(シニア、女子シニア、ミッドシニア)開催方法の変更

平成23年度よりシニア、女子シニア、ミッドシニアの3競技の地区決勝・全日本を同一会場、同一日程で開催する方法に変更した。開催方法変更に伴い、女子シニア、ミッドシニアの地区決勝を18ホールストロークプレーから36ホールストロークプレーに変更した。

5. シニア3選手権地区決勝・全日本開催方法変更に伴う競技参加資格の変更

男子シニアとミッドシニアは別競技であり、従来65歳以上の男子は両競技にエントリー出来たが、シニア3選手権地区決勝・全日本の競技方法変更に伴い、男子シニアとミッドシニア両競技のダブルエントリーは不可とした。

6. 北海道・青森地区女子パ選、シニア選手権の廃止

北海道・青森選手権競技は、女子パブリック選手権並びに、シニア選手権の開催を廃止した。従って、今後は男子パブリック選手権、並びに男子ミッドアマ選手権のみを開催する。

7. PGSスポンサー杯競技「キャロウェイ杯」の新設

平成23年度競技より、キャロウェイゴルフ株式会社(賛助会員)の協賛により、PGSスポンサー杯キャロウェイ杯(年10回)を新設した。なお、予選通過者にはグランドマンズリーへの参加資格を与える。

8. PGSドリーム・エイジ大会の競技参加料引き下げ、並びに歩数ハンディキャップの上限設定

PGSドリーム・エイジゴルフ大会の競技参加料を3,500円から2,500円に引き下げた。また、歩数ハンディキャップに開催コースのプレースタイルに応じて上限を設けた。

9. PGSアンダーハンディ競技予選・地区決勝の上限ハンディキャップの統一

ローハンディキャップ者に対して競技参加機会の一層の開放、及び従来予選・地区決勝間の上限ハンディキャップを地区毎に統一した。

- (1)東日本地区:50.0 (2)中部日本地区:50.0 (3)西日本地区:36.0

【予選からの決勝進出率(予選通過率)】

地区	PGSダンロップ杯決勝	PGSブリヂストン杯決勝	PGSグランドマンズリー
東日本地区	50%及びベスグロ者	50%及びベスグロ者	30%及びベスグロ者

中部日本地区	70%(北陸地区は80%) 及びベスグロ者	70%(北陸地区は80%) 及びベスグロ者	60%(北陸地区は80%) 及びベスグロ者
西日本地区	50%及びベスグロ者	60%及びベスグロ者	30%及びベスグロ者

IV. 競技開催実績

1. 参加資格

競技名	参加資格	年齢資格
I.スクラッチ競技		
1.パ選	1.ハンディキャップ20.0程度以上 が望ましい 2.日本ゴルフ協会ゴルフ規則に規 定されたアマチュアゴルファー 3.高等学校までに在学の生徒は、 学校長等責任者の参加許可証 の提出が必要	なし
2.女子パ選		男子55歳以上 女子50歳以上 男子65歳以上 男子、女子共30歳以上
3.シニア		
4.女子シニア		
5.ミッドシニア		
6.ミッドアマ		
II.アンダーハンディ競技		
1.アンダーハンディ競技(予選) (1)PGS スポンサー杯 (2)PGS ハンディ杯	PGS会員でJGA(PGS)ハンディキ ャップ取得者	なし
2.アンダーハンディ競技(決勝) (1)ダンロップ杯 (2)グランドマンスリー		
3.PGSドリーム・エイジゴルフ大 会(予選) (1)個人戦 (2)団体戦	男女とも65歳以上	男女とも65歳以上
4.PGSドリーム・エイジゴルフ大 会(決勝) (1)個人戦		
5.PGS西日本月例杯	PGS会員でJGA(PGS)ハンディキ ャップ取得者 JGA ハンディキャップ取得を目指 すアマチュアゴルファー	
6.PGS中部日本月例杯 (みんなであきうき旅ゴルフ)		
7.PGS東日本クラブ対抗戦		
8.PGS東日本プロ・アマチャレンジ		

(注)PGS会員:ハンディキャップの取得を目的とした会員組織で、誰でも会員になれる。

2. 参加申込者数の状況

単位:名

競技	パ選(男子)	パ選(女子)	パ選合計	シニア(男子)	シニア(女子)
平成23	6,313	762	7,075	1,631	388
平成22	7,822	979	8,801	1,695	396
増減	▲1,509	▲ 217	▲1,726	▲ 64	▲ 8
競技	シニア(ミッドシニア)	シニア合計	ミッドアマ(男子)	ミッドアマ(女子)	ミッドアマ合計
平成23	1,018	3,037	5,281	623	5,904
平成22	1,008	3,099	5,339	637	5,976
増減	+ 10	▲ 62	▲ 58	▲ 14	▲ 72
競技	スクラッチ競技計	UH競技(予選)	UH競技(決勝)	PGSドリーム・エイジ	西日本月例杯
平成23	16,016	6,562	1,262	713	10,054

平成22	17,876	6,724	1,155	637	9,615
増減	▲1,860	▲162	+107	+76	+439
競技	中部日本月例杯	東日本クラブ対抗戦	東日本プロアマチャレンジ	アンダーハンディ競技計	合計
平成23	567	376	—	19,534	35,550
平成22	508	392	28	19,059	36,935
増減	+59	▲16	▲28	+475	▲1,385

3. 競技

◆スクラッチ競技

(1)平成23年度第45回全日本パブリックアマチュアゴルフ選手権競技

平成23年度全日本パブリックアマチュアゴルフ選手権競技の参加者数は、男子6,313名(前年度比▲1,509名、▲19.3%)、女子762名(同▲217名、▲22.2%)、合計7,075名(同▲1,726名、▲19.6%)であった。3月に発生した東日本大震災、原発問題による風評被害の影響を大きく受けたため、本年度は8,000名を大きく下回る結果となった。

◆競技日程

1. 予選

地区	東日本	中部日本	西日本	北海道・青森	合計
予選数	36	15	37	2	90
申込人数(名)	2,677	1,268	2,275	93	6,313

2. 地区決勝

地区	開催コース	開催日	参加者数(名)
1.東日本 A	イーストウッドカントリー倶楽部	5/19(木)-20(金)	143
2.東日本 B	榛名の森カントリークラブ	5/18(水)-19(木)	155
3.東日本 C	千葉よみうりカントリークラブ	5/7(土)-8(日)	162
4.中部日本	名古屋広幡ゴルフコース	5/18(水)-19(木)	153
5.西日本 関西	ダンロップゴルフコース	5/17(火)-18(水)	176
6.西日本 中国	奥津ゴルフ倶楽部	5/18(水)-19(木)	142
7.西日本 四国	コート・ベール徳島ゴルフクラブ	5/18(水)-19(木)	119
8.西日本 九州	セントレジャーゴルフクラブ鞍手	5/17(火)-18(水)	156
9.北海道・青森	随縁カントリークラブ恵庭コース	8/29(月)-30(火)	57
合計			1,263

3. 全日本

	開催コース	開催日	参加者数(名)
全日本	グランドオークゴルフクラブ	6/8(水)-9(木)	152

(2)平成23年度第11回全日本女子パブリックアマチュアゴルフ選手権競技

◆競技日程

1. 予選

地区	東日本	中部日本	西日本	合計
予選数	19	1	22	42
申込人数(名)	373	81	308	762

2. 地区決勝

地区	開催コース	開催日	参加者数(名)
1.東日本	那須野ヶ原カントリークラブ	5/8(日)	178
2.中部日本	名古屋広幡ゴルフコース	5/12(木)	64
3.西日本	青野運動公苑アオノゴルフコース	5/13(金)	169
合計			411

3. 全日本

	開催コース	開催日	参加者数(名)
全日本	ベアズパウジャパンカントリークラブ	6/1(水)-2(木)	160

(3)平成23年度第17回全日本シニアパブリックアマチュアゴルフ選手権競技

平成23年度全日本シニアパブリックアマチュアゴルフ選手権競技の参加者数は、シニア男子1,631名(前年度比▲64名、▲3.8%)、シニア女子388名(同▲8名、▲2.0%)、ミッドシニア男子1,018名(同+10名、+1.0%)、合計3,037名(同▲62名、▲2.0%)であった。平成23年度より、シニア3部門(シニア、女子シニア、ミッドシニア)を同日・同一会場開催で行った。

◆競技日程

1. 予選

地区	東日本	中部日本	西日本	合計
予選数	21	10	28	59
申込人数(名)	584	458	589	1,631

2. 地区決勝

地区	開催コース	開催日	参加者数(名)
1.東日本	三井の森軽井沢カントリー倶楽部	9/28(水)-29(木)	87
2.中部日本	正眼寺カントリークラブ	9/14(水)-15(木)	94
3.西日本	北神戸ゴルフ場	9/21(水)-22(木)	77
合計			258

3. 全日本

	開催コース	開催日	参加者数(名)
全日本	榛名の森カントリークラブ	10/19(水)-20(木)	69

(注)男子シニア、女子シニア、ミッドシニア :地区決勝、全日本は同日同会場で開催。

(4)平成23年度第17回全日本女子シニアパブリックアマチュアゴルフ選手権競技

◆競技日程

1. 予選

地区	東日本	中部日本	西日本	合計
予選数	12	7	15	34
申込人数(名)	172	91	125	388

2. 地区決勝

地区	開催コース	開催日	参加者数(名)
1.東日本	三井の森軽井沢カントリー倶楽部	9/28(水)-29(木)	28

2.中部日本	正眼寺カントリークラブ	9/14(水)-15(木)	20
3.西日本	北神戸ゴルフ場	9/21(水)-22(木)	25
合計			73

3. 全日本

	開催コース	開催日	参加者数(名)
全日本	榛名の森カントリークラブ	10/19(水)-20(木)	24

(注) 男子シニア、女子シニア、ミッドシニア : 地区決勝、全日本は同日同会場で開催。

(5)平成23年度第8回全日本ミッドシニアパブリックゴルフ選手権競技

◆競技日程

1. 予選

地区	東日本	中部日本	西日本	合計
予選数	17	11	22	50
申込人数(名)	321	328	369	1,018

2. 地区決勝

地区	開催コース	開催日	参加者数(名)
1.東日本	三井の森軽井沢カントリー倶楽部	9/28(水)-29(木)	50
2.中部日本	正眼寺カントリークラブ	9/14(水)-15(木)	64
3.西日本	北神戸ゴルフ場	9/21(水)-22(木)	54
合計			168

3. 全日本

	開催コース	開催日	参加者数(名)
全日本	榛名の森カントリークラブ	10/19(水)-20(木)	46

(注) 男子シニア、女子シニア、ミッドシニア : 地区決勝、全日本は同日同会場で開催。

(6)平成23年度第5回全日本パブリックミッドアマチュアゴルフ選手権競技

最近のパブリック選手権は、中高校生のジュニア選手が上位を独占する傾向が顕著であり、アマチュアゴルファーの最も層が厚いミッド世代の腕前を競う競技として、平成17年度に西日本パブリックミッドアマ選手権競技がスタートした。初年度1,415名、平成18年度1,494名の参加者を得、微増ながら確実な支持を得たので、平成19年度より機も熟したとの判断から、全日本を立ち上げた。平成19年度は地区決勝を実施せず(西日本地区のみ2次予選を開催)予選から全日本という変則的開催となったが、平成20年度より地区決勝を立ち上げた。

平成23年度は東日本大震災の影響もあり、男子の部5,281名(前年度比▲58名、▲1.1%)、女子の部623名(前年度比▲14名、▲2.2%)、合計5,904名(前年度比▲72名、▲1.2%)と、立ち上げ以来初の減少となった。

◆競技日程

1. 予選

地区	東日本	中部日本	西日本	北海道・青森	合計
予選数(男子)	33	10	35	3	81
予選数(女子)	17	7	27	—	51
合計	50	17	62	3	132

申込人数(男子)(名)	2,462	1,150	1,579	90	5,281
申込人数(女子)(名)	321	121	181	—	623
合計(名)	2,783	1,271	1,760	90	5,904

2. 地区決勝

地区	開催コース	開催日	参加者数(名)
1.東日本 A	下館ゴルフ倶楽部	8/ 2(火)- 3(水)	176
2.東日本 B	東京よみうりカントリークラブ	7/25(月)-26(火)	168
3.中部日本	森林公園ゴルフ場	7/28(木)-29(金)	163
4.西日本	武庫ノ台ゴルフコース	7/21(木)-22(金)	163
5.北海道・青森	セントレジャーゴルフクラブ札幌	7/29(金)	48

3. 全日本

	開催コース	開催日	参加者数(名)
全日本	ラ・ヴィスタ ゴルフリゾート	9/7(水)-8(木)	144

◆アンダーハンディ競技

1.PGS アンダーハンディ競技(予選)

(1)PGS スポンサー杯、(2)PGS ハンディ杯

2.PGS アンダーハンディ競技(決勝)

(1)ダンロップ杯、(2)ブリヂストン杯、(3)グランドマンズリー

平成23年度PGSアンダーハンディ競技は、キャロウェイ杯が新設され、PGSスポンサー杯90回、PGSハンディ杯14回、合計104回開催した。JGA・PGS ハンディキャップ登録者は約2万4千名で、平成23年度の競技参加者数は、予選は6,562名(前年度比▲162名、▲2.4%)と苦戦したが、決勝は本年度よりブリヂストン杯(3地区決勝)が新設され、1,262名(前年度比+107名、+9.3%)と大幅な増加となった。このところ予選参加者数が減少傾向あるが、ハンディキャップの普及推進に努め一層の参加者拡大を図りたい。

◆競技日程

1. 予選

予選数		東日本	中部日本	西日本	合計
PGS スポンサー杯	ダンロップ杯	16	7	20	43
	ブリヂストン杯	10	5	9	24
	サンレオ杯	5	4	4	13
	キャロウェイ杯	4	3	3	10
PGS ハンディ杯		7	5	2	14
合計		42	24	38	104

2. 予選参加人数

		東日本	中部日本	西日本	合計(名)
PGS スポンサー杯	ダンロップ杯	1,062	615	1,238	2,915
	ブリヂストン杯	613	414	670	1,697
	サンレオ杯	216	254	298	768
	キャロウェイ杯	218	212	123	553
PGS ハンディ杯		256	320	53	629
合計		2,365	1,815	2,382	6,562

3. 地区決勝

(1)ダンロップ杯

地区	開催コース	開催日	参加者数(名)
1.東日本	市原ゴルフクラブ 柿の木台コース	11/10(木)	146
2.中部日本	名古屋港ゴルフ倶楽部(富浜コース)	11/ 2(水)	130
3.西日本	ダンロップゴルフコース	11/ 2(水)	190
合計			466

(2)ブリヂストン杯

地区	開催コース	開催日	参加者数(名)
1.東日本	千葉よみうりカントリークラブ	平成24/4/5(木)	112
2.中部日本	グランシエロゴルフ倶楽部	10/26(水)	101
3.西日本	西神戸ゴルフ場	11/15(火)	160
合計			373

(3)グランドマンズリー

地区	開催コース	開催日	参加者数(名)
1.東日本	八千代ゴルフクラブ	11/15(火)	172
2.中部日本	アリジカントリークラブ 花垣コース	11/17(木)	110
3.西日本	姫路シーサイドゴルフコース	11/30(水)	141
合計			423

3.PGSドリーム・エイジゴルフ大会

平成20年度までは、高齢者の健康の保持増進の観点からの競技として「いきいきゴルフ300歳大会」〔主催：日本スーパーシニアゴルフ協会(仙台市)〕を、ゴルフ市場活性化委員会(GMAC)の構成メンバーとして後援開催してきた。高齢者の健康の保持増進への寄与は、当協会の事業目的の一つであり、平成21年度より当協会の独自競技として、「PGSドリーム・エイジゴルフ大会」をスタートした。競技は65歳以上のゴルファーを対象とし、当協会独自の「PGSドリーム・エイジハンディキャップ」(年齢にラウンド中の歩数に応じたハンディキャップを加算)による18ホール・ストロークプレーで、ゴルフと健康の保持増進を結びつけたユニークな競技である。平成23年度よりゴルフ市場活性化委員会(GMAC)の後援を受けた。

平成23年度は予選24開催、地区決勝を3開催し、参加人数は予選595名、決勝118名、合計713名(前年度比+76名、+11.9%)と微増した。更に、競技方法の変更等を工夫し中高齢者向け競技として一層の定着化を目指したい。

◆競技日程

1. 予選

予選開催数	東日本	中部日本	西日本	北海道・青森	合計
1.個人戦	8	8	7	—	23
2.団体戦	1	—	—	—	1
合計	9	8	7	—	24

(1)18ホール・ストロークプレー

(2)PGSドリーム・エイジハンディキャップ方式(年齢+歩行数によるハンディキャップ)により順位を決定

2. 参加人数

単位:名

	東日本	中部日本	西日本	北海道・青森	合計
1.個人戦	201	214	135	—	550
2.団体戦	45	—	—	—	45
合計	246	214	135	—	595

3. 地区決勝

地区	開催コース	開催日	参加者数(名)
1.東日本	紫カントリークラブ あやめコース	11/ 2(水)	53
2.中部日本	正眼寺カントリークラブ	11/ 8(火)	44
3.西日本	大阪パブリックゴルフ場	10/27(木)	21
合計			118

(1)競技方法 :予選と同じ

(参考)PGS ドリーム・エイジゴルフ大会チャリティ募金寄贈

平成23年度 PGS ドリーム・エイジゴルフ大会のチャリティ募金額は287,087円となった。原則は、予選開催コースが最寄の社会福祉団体等に寄付するが、寄贈先事務局依頼分95,447円は、「日本赤十字社(東京都港区大門 1-1-3)」に寄贈した

4.PGS西日本月例杯

PGS 月例杯はアンダーハンディ競技の充実を図るために、PGS 会員を対象として平成13年度にスタートした。以前は東日本、中部日本を含めて全日本事業であったが、現在は西日本地区のみで開催している。

平成23年度は開催数161回、参加者数10,054名(前年度比+439、+4.6%)と増加した。今後一層 JGA ハンディキャップの普及振興に努め、ハンディキャップ取得者の増加によりますます盛況な競技会にしたいと考えている。

	関西地区	中国地区	四国地区	九州地区	合計
開催数	74	47	24	16	161
申込人数(名)	3,743	3,934	1,849	528	10,054

(注)PGS 会員:ハンディキャップの取得を目的とした会員組織で、誰でも会員になれる。

5.PGS中部日本月例杯(みんなであきうき旅ゴルフ)

平成21年度より、「PGS中部日本月例杯(みんなであきうき旅ゴルフ)」がスタートした。ゴルファーは自分のゴルフ技量を、公正な同一規定に基づくハンディキャップで正しく示す責任がある。当協会は、わが国唯一の公認ハンディキャップのJGAハンディキャップの普及に努めており、アマチュアゴルファーの証であるJGAハンディキャップの一層の取得推進を目指した競技会である。

平成23年度は予選10開催、並びに決勝を開催し、参加人数は予選533名、決勝34名、合計567名。前年度比で+59名、+11.6%であった。今後一層 JGA ハンディキャップの普及振興に努め、ハンディキャップ取得者の増加によりますます盛況な競技会を目指したい。

1.予選

(1)開催会場 :中部日本地区会員 :10コース

(2)参加資格 ①アンダーハンディ競技 :PGS会員でJGAハンディキャップの取得者

②ダブルペリア競技 :PGS会員、及びJGAハンディキャップ取得を目指すアマチ

ユアゴルファー

(3) 競技方法 ①18ホール・ストロークプレー(アンダーハンディ競技)

②ダブルペリア競技

(4) 参加者数

	アンダーハンディ競技		ダブルペリア競技		合計
	男子	女子	男子	女子	
参加人数(名)	281	56	172	24	533

2. 決勝

(1) 開催日 :平成24年4月20日(金)

(2) 開催会場 :正眼寺カントリークラブ

(3) 参加資格 :予選通過者、及び特典(多回数参加者)によるシード選手

(4) 競技方法 :18ホール・ストロークプレー(アンダーハンディ競技)

(5) 参加者数 :男性 30名、女子 4名、合計 34名

6.PGS東日本クラブ対抗戦

平成21年度より東日本地区の協会競技として新たにスタートした。JGA ハンディキャップの普及振興を目的とした東日本加盟会員コースのクラブ対抗戦で、4ブロック(ABCD)でブロック予選を開催し、各ブロックより男女各2チーム、決勝大会開催クラブより男女2チーム、及び前年度優勝クラブ代表の男女2チームを加えた、合計12チームで決勝大会を開催する。平成23年度は、ブロック大会には合計252名、決勝には124名、合計376名が参加した。

1. ブロック予選

(1) 参加資格:東日本地区会員コースの何れかで PGS 会員登録をし、JGA ハンディキャップを取得しているアマチュアゴルファー

(2) 競技方法

①18ホールストローク・アンダーハンディ競技(JGA ハンディキャップ)

②ハンディキャップの下限 :男子部門20.0、女子部門30.0

③順位決定 :男子部門は出場選手の内、上位5名のネットスコア合計による
女子部門は出場選手の内、上位3名のネットスコア合計による

(3) 開催日・会場・出場クラブ

ブロック	出場クラブ	ブロック予選	開催日
Aブロック	那須野ヶ原、イーストウッド、うぐいすの森馬頭、ハーモニーヒルズ、TOKYO North Hills、古河、ウインザーパーク、うぐいすの森水戸、下館	ハーモニーヒルズゴルフクラブ	10月7日
Bブロック	新玉村、前橋、上武、榛名の森、朝霞、妻沼、三井の森	朝霞パブリックゴルフ場	9月22日
Cブロック	市原、市原・柿の木台、セントレジャー千葉、千葉よみうり、八千代、セントレジャー市原、ラヴィスタ、紫・あやめ	セントレジャーゴルフクラブ千葉	10月7日
Dブロック	昭和の森、清里、小淵沢、富士見高原、篠ノ井、富士グリーンヒル	富士見高原ゴルフコース	10月4日

(4) ブロック予選代表チーム

各ブロック2クラブ(1クラブ男子部門8名、女子部門5名)

(注) 決勝大会開催コース、前年度優勝クラブが上位2クラブに入賞した場合は、繰り下げて出

場資格を付与する。

(5)参加人数

ブロック・開催コース	クラブ数	男子	女子	合計
Aブロック（ハーモニーヒルズ）	8	44	7	51
Bブロック（朝霞）	10	39	24	63
Cブロック（セントレジャー千葉）	14	54	33	87
Dブロック（富士見高原）	8	31	20	51
予選計	40	168	84	252
決勝	20	79	45	124
合計	60	247	129	376

2. 決勝大会

- (1)開催会場：セントレジャーゴルフクラブ市原(千葉県)
- (2)開催日：前夜祭 平成23年10月24日(月)／クラブ対抗戦 平成23年10月25日(火)
- (3)参加資格：①PGS東日本各ブロック予選の男女各上位2クラブ
②決勝大会開催クラブ、及び前年度優勝クラブより各男女2クラブ
- (4)チーム編成：1クラブ 男子部門8名・女子部門5名
- (5)競技方法：ブロック予選と同様
- (6)参加人数：前掲の通り

7.PGS東日本プロ・アマチャレンジ

平成21年度より東日本地区競技としてスタートしたが、平成23年度は開催休止となった。

V. 協会誌「PGSニュース」の発行

当協会主催競技に関して、競技開催案内、年間競技スケジュール、競技の様様、競技成績等を盛り込んだ記録誌として、「PGSニュース」を年1回(2月)に発行した。従来は年2回発行であったが、本年度は東日本大震災の影響から予算を圧縮し年1回発行に切り替えた。競技参加者に対して無償配布しており、「PGSニュース」は既に79号を重ね、我が国のパブリックゴルフ史としても貴重な資料である。

■公益目的事業2. ゴルフ普及振興事業

I. セミナー・研修事業

本事業は生涯スポーツであるゴルフの普及振興のために、セミナー・研修会を通じてゴルファーの啓蒙に資する、並びに一層質の高い競技会の実現を目指して、競技会の運営・競技委員を対象にゴルフ・ルール、コースセッティング方法等、競技会運営に係わる技術向上を目指した研修会を開催する。セミナー・研修会事業は、本年度は東日本大震災の影響による予算圧縮のため開催を取りやめた。

1. 平成23年度PGSセミナー

未開催 : 東日本大震災の影響による予算圧縮のため開催取りやめ。

(参考) 最近のPGSセミナー開催実績

年度	テーマ	講師
平成17年度	ゴルフでたどる日米交流史	久保田 誠一 (大妻女子大学比較文学部 講師)
	ゴルフホームドクター制度導入による ゴルフ場活性化事例	大東 将啓 (PGA Dr.ティーチングプロ)
平成18年度	ゴルフ場業界の現状と生き残りの条件	降旗 貞夫 (日本ゴルフ場総合研究所専務理事)
平成19年度	物理学から見たゴルフの楽しさ	八木 一正行(宮城大学教授)
平成20年度	ゴルフのカラダ革命	宮田 トオル(メデイカルケア院長)
平成21年度	ゴルフ場はエコ・パーク	縣 和一 (西日本グリーン研究所所長、 九州大学名誉教授)
平成22年度	アンチエイジング・ゴルフという考え方	齋藤 真嗣(ニューヨーク州医師)

2. 平成23年度研修会

(1) グリーンキーパー研修会

日時	平成23年4月5日(金)	テーマ	名古屋港ゴルフ倶楽部(富浜コース)のコース管理について
		講師	名古屋港ゴルフ倶楽部(富浜コース) 堀田 信吾
場所	セントレジャーゴルフクラブ'亀山	テーマ	土壌改善による健康な芝作り
		講師	グランシエロゴルフ倶楽部 芳村 栄二

(参考) 最近の研修会開催実績

年度	テーマ
平成17年度	平成17年度グリーン管理について
	成長抑制剤プリモについて
	猪被害防止対策について
平成18年度	コース人員・資材・経費について
	グリーン管理とコースを中心とした管理
	リンクコースの特性と感知方法
平成19年度	グリーンのオーバーシートについて

	グリーン肥培管理及び今後の方向性
	コース管理業務委託による一般管理
平成20年度	コース・セッティングについて
	これからのゴルフ場のコース管理
	ゴルフコース管理概況とインターシード計画
平成21年度	コースの現状について
	これからのコースメンテナンスの動向について
平成22年度	ベントグリーン全面張替とコース管理
	2009年度コース管理について

II. 交流・協力事業

ゴルフ業界を取り巻く環境は先行き厳しいが、ゴルフ市場活性化のために業界諸団体は連携・協力して様々な活動を展開する必要がある。この様な観点から当協会は業界諸団体と連携・協力して、ゴルフ市場の活性化に向けた活動を展開した。

1. 日本ゴルフサミット会議

(1) 2012年第1回日本ゴルフサミット会議

日時	平成24年1月13日(金) 10:00~11:20	内容	2012年活動テーマの決定 1)ゴルフ界は積極的にグリーン・ティー・チャリティ活動に取り組む 2)ゴルフ界は環境問題に積極的に取り組む 3)ゴルフ場利用税撤廃運動の継続 4)国家公務員倫理規程における「ゴルフ」の削除 5)ゴルフ活性化の取り組み
場所	ANA インターコンチネンタルホテル東京		

(2) ゴルフ新年会の開催

日時 平成24年1月13日(金) 11:30~15:00

場所 ANA インターコンチネンタルホテル東京

(3) 日本ゴルフサミット会議運営会議に参加(隔月開催)

2. ゴルフ市場活性化委員会(GMAC)

(1) 当協会はゴルフ市場活性化委員会(GMAC)の構成メンバーとして、「はじめよう」「続けよう」「もっとゴルフを」をスローガンにゴルフ業界の活性化に向けた活動をしている。平成23年度より「続けようゴルフを」にマッチする当協会の「PGSドリーム・エイジゴルフ大会」はGMACの後援を受け開催、他のテーマ「はじめようゴルフを」として「スクランブルゴルフの普及」、「もっとゴルフを」として「経済産業大臣杯全国チーム対抗戦」を各団体と連携して活動した。

(2) 定例委員会への参加(毎月1回定例会議)

(3) ゴルフ市場活性化セミナーへの参画

3. NPO法人日本ジュニアゴルファー育成協議会(JGC)

NPO法人日本ジュニアゴルファー育成協議会は、「ゴルフをツールとした子どもたちの健全育成」を原点に活動をしている。斯業界の実情は、業界関係者は業界を挙げて市場活性化に向けた活動をする必要があるが、同協議会のジュニアゴルファーの育成は青少年の健全な育成に加えゴルフ業界の裾野拡大が期待でき首肯できる。当協会は同協議会の構成メンバーとして、ジュニアゴルファーの育成に連携して活動した。

4. ジャパンゴルフフェア2012の後援・ブース出展

(社)日本ゴルフ用品協会主催の第46回ジャパンゴルフフェア2012は、平成24年2月17日(金)～2月19日(日)の3日間東京有明ビッグサイト東京国際展示場において開催されたが、当協会はこれを後援すると共にブースを出展し、当協会の事業活動のPRを実施した。

Ⅲ. 調査・研究事業

当事業は、ゴルフの普及振興のためにゴルフに関する各種調査・研究事業を実施する事業である。平成23年度は東日本大震災の影響による予算圧縮のため、調査・研究事業を一時休止とした。

(参考)過去の調査・研究実績

年度	調査・研究内容
平成19年度	1. パブリック選手権競技参加者アンケート 2. パブリックゴルフ場のジュニアゴルファーの受入態勢調査
平成20年度	1. シニア選手権競技参加者アンケート
平成21年度	1. シニアパブリック選手権競技参加者アンケート 2. PGSDリーム・エイジゴルフ大会参加者アンケート
平成22年度	ゴルフのプレー頻度がゴルファーの健康や生活に及ぼす影響

Ⅳ. その他のゴルフ普及振興事業

斯業界の長期的展望は少子高齢化の加速や人口減少から、市場規模は縮小化の方向にあり、引き続き経営環境は厳しいと予想される。このような状況下、ゴルフ業界は一層連携を強化し、新規ゴルファーの育成、需要創出が喫緊の課題であり、当協会もゴルフ市場の活性化に向けゴルファーの底辺拡大施策等様々な取組みを推進した。

1. ジュニアゴルファー育成の取り組み

NPO法人日本ジュニアゴルファー育成協議会(JGC)の活動目的のジュニアゴルファーの育成は青少年の健全な育成に資するものであり、斯業界にとってはゴルファーの裾野拡大の観点より重要な課題である。ジュニアゴルファーの育成は業界団体が業界を挙げて取り組み、市場活性化に向けた活動を連携する必要がある。当協会は同協議会の構成メンバーとしてジュニアゴルファーの育成に連携して活動した。

2. スクランブルゴルフの推進 :女性・ビギナーゴルファーの育成

斯業界の長期的展望は前記の通り厳しいが、このような状況下女性・ビギナーゴルファーの育成は、需要創出策として喫緊の課題であり活性化に向け様々な取組みを推進した。

ゴルフ市場活性化委員会(GMAC)が提唱する、「はじめようゴルフを」のテーマの下に推奨する「スクランブルゴルフ」は女性・ビギナーゴルファーのラウンド初体験を促進するシステムとして有効と考えている。ゴルフ市場活性化委員会(GMAC)は活動目標の策定、並びにGMAC仕様のスクランブルを構築すべく活動しているが、当協会もゴルフ市場活性化委員会(GMAC)の構成メンバーとして連携して活動した。

3. 健康保持増進に資するための中高齢者ゴルファーの掘り起こし

平成20年度までは、中高齢者の健康の保持増進の観点からの競技として「いきいきゴルフ300歳大会」〔主催:日本スーパーシニアゴルフ協会(仙台市)〕を、ゴルフ市場活性化委員会(GMAC)の構成メンバーとして後援開催してきた。中高齢者の健康の保持増進への寄与は、当協会の事業目的の一つであり、平成21年度より当協会の独自競技として、「PGSDリーム・エイジゴルフ大会」をスタートした。競技は65歳以上のゴルファーを対象とし、当協会独自の「PGSDリーム・

エイジハンディキャップ」(年齢にラウンド中の歩数に応じたハンディキャップを加算)による、18ホール・ストロークプレーで、ゴルフと健康の保持増進を結びつけたユニークな競技である。平成23年度よりゴルフ市場活性化委員会(GMAC)の後援を受けた。

4. 他団体との協賛・後援事業

- (1) 社団法人日本ゴルフ用品協会に対し後援 : 第46回ジャパンゴルフフェア2012
- (2) 日本ゴルフサミット会議に対し協賛 : 2012年ゴルフ新年会
- (3) 他団体競技の後援

競技名	主催者
東日本大震災復興支援 第33回 ALL KANSAI テレビ アマチュアゴルフ選手権	(株)サンテレビジョン
第3回ウッドフレンズレディース アマ・プロゴルフ選手権競技 女子アマチュアの部	森林公園ゴルフ場運営会社(株)
日刊アマゴルフ全日本シングルプレーヤーズゴルフ選手権	北海道日刊スポーツ新聞社
第26回・第27回アオノジュニアゴルフ大会	青野運動公苑アオノゴルフコース
第17回・第18回すきっぷ 21:アオノ親子ゴルフ大会	青野運動公苑アオノゴルフコース
日刊アマゴルフ2011 全日本シングルプレーヤーズゴルフ選手権東日本大会	日刊スポーツ新聞社東京本社
日刊アマゴルフ2011 全日本シングルプレーヤーズゴルフ選手権北海道大会 全日本レディースゴルフ選手権北海道大会	北海道日刊スポーツ新聞社
2011年近畿オープンゴルフ選手権	サンケイスポーツ

■収益事業 ハンディキャップ普及振興事業

I. 公平な統一ハンディキャップの普及振興事業

1. 自分のゴルフ技量を正しく示すことはゴルファーの責任

ゴルフは年齢・性別・技量の異なる者同士でも対等に楽しめるスポーツであるが、それは公平な統一ハンディキャップ(JGAハンディキャップ:国際ゴルフ・ルールに基づき公益財団法人日本ゴルフ協会が発給)が前提条件である。ゴルファーは自分のゴルフ技量を公式な同一規定に基づくハンディキャップで正しく示す責任があるが、JGAハンディキャップは日本で唯一の公認ハンディキャップであり、当協会は日本全国のアマチュアゴルファーに対して、ゴルファーの証とも言えるJGAハンディキャップの普及振興を推進している。また、公平な統一ハンディキャップの普及振興は、競技主催団体にとってはアンダーハンディ競技会の適正、公正な運営の前提条件でもある。

当協会のJGAハンディキャップ取得者は約2万3千人で、高額なゴルフ会員権の取得を必要とせず、誰でも低廉な登録料でPGS会員になることにより、手軽に取得できる点から多くのアマチュアゴルファーの支持を得ている。

2. ハンディキャップ取得者の推移

単位:名

	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
JGA ハンディキャップ	20,262	25,451	23,471	24,663	24,974	23,371
PGS ハンディキャップ	8,138	4,714	2,913	2,413	520	480
合計	28,400	30,165	26,384	27,076	25,494	23,851

3. JGA ハンディキャップ(J-sys)導入状況

平成18年4月に、特別委員会「J-sys検討委員会」を立上げ、JGA ハンディキャップ(J-sys)の普及推進に努めてきたが、この間の進捗状況は下記の通り。

(平成18年4月現在)

	東	中部	西	合計
JGA HDCP	31	10	21	62
PGS HDCP	2	1	21	24
合計	33	11	42	84

⇒

(平成24年3月現在)

単位:コース

	東	中部	西	北・青	合計
	28	11	36	5	80
	2	0	1	0	3
	30	11	37	5	83

II. JGAコースレート査定事業

公平な統一ハンディキャップであるJGAハンディキャップの普及振興のためには、その前提としてゴルフ場のコースレーティングが正確に査定されている必要がある。当協会はコースレート査定を管轄する公益財団法人日本ゴルフ協会(JGA)に対してコースレート査定を希望する会員パブリックゴルフ場の依頼に基づき、同協会への申請窓口として機能している。平成23年度は、平成24年より導入のUSGAスロープシステムへの移行準備期間のため、コースレート査定は実施されなかった。

■その他事業 助成金事業

本事業はゴルフの普及振興を図るために、ジュニアゴルファーの育成を目的に活動する業界2団体に対して、助成金事業を実施するものである。

1. NPO法人日本ジュニアゴルファー育成協議会 (JGC) :助成金 500千円

当協議会はゴルフをツールに児童・青少年の健全な育成を目的に活動している。ジュニアゴルファーの育成は青少年の健全育成、並びにゴルファーの底辺拡大の観点から首肯でき、同協議会の活動目的に賛同して助成金事業を実施し活動をバックアップしてきた。

但し、平成23年度は東日本大震災の影響による、収支悪化から拠出を中止(留保)した。

2. 日本高等学校ゴルフ連盟 :助成金 500千円

当連盟は高等学校教育の一環であるクラブ活動を通じて、心身を鍛え、社会生活を営むに相応しい生徒を育てること、ゴルフ界の健全な発展へ寄与することを目的に活動している。同連盟の活動目的に賛同して助成金事業を実施してきた。

但し、平成23年度は東日本大震災の影響による、収支悪化から拠出を中止した。

むすび

I. ゴルフ業界の環境認識

平成23年度を振り返ってみると、東日本大震災、欧州債務危機、アメリカ財政問題等によって、大きく揺れた一年であった。特に、3月に発生した未曾有の東日本大震災では多くの人命が奪われ、東北地区を中心に大きな被害をもたらした。お亡くなりになった方々のご冥福を心よりお祈り申し上げます。また、被災した皆様に対して心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興並びに皆様のご健康を心からお祈り申し上げます。平成24年度は国内の復興、ゴルフ界の再興に向けて、本格的に動き出すべき重要な一年になると思います。

我が国最大のスポーツ産業であるゴルフ業界の最近の状況を、ゴルフ場利用者数の推移(下表参照)で見ると、平成17年度にゴルフ場利用者数はそれまでの減少から増加に転じ、その後平成21年度までの5年間の増加人数は延べ6,335千人、増加率7.4%と順調な増加傾向を示し、漸く最悪期を脱して明るさが見えはじめたかの様に思われたが、平成22年度は夏季の猛暑や年末年始の降雪の影響から、人数・率とも過去2番目の大きな減少(▲3.9%)となった。平成23年度は、速報値ながら4.6%減少との報道もあり、東日本大震災の影響は避けられず、現状のまま推移すれば過去最大の減少になる可能性も出てきている。

足許のゴルフ場利用者数の推移は以上の通りだが、ゴルフ業界の長期的展望は少子高齢化の加速や人口減少から、市場規模は縮小化の方向にある。一方、2015年問題、所謂人口構造の変化からくるゴルフ業界マーケットへの影響は、ゴルフ場・ゴルフ練習場の入場者数が2010年にピークアウトし、以後連続減少期に突入するとの予測だが、現実にはピークが一年早く2009年に訪れたと言われている。人口減少、少子高齢化と同時進行している2015年問題から、ゴルフ業界の経営環境は引き続き厳しいとの見方が一般的である。

このような状況下、ゴルフ業界にとってはゴルファーを増やす底辺の拡大施策、またプレー回数を増やす等の需要創出が喫緊の課題であり、一方、ゴルフを継続できる環境整備に向けてゴルフ業界団体は、連携を強化し市場活性化に向けた取組を、一層強化すべきであると思われる。当協会はゴルフ競技会を通じて、アマチュアゴルファーの育成を基軸に、業界の活性化に向けた様々な事業活動を推進したいと考えている。

【最近のゴルフ場利用者数の推移】

年度	利用者数 (千人)	増減 (千人)	同比率 (%)	ゴルフ場数 (数)	1ゴルフ場当たり 利用者数(人)
平成16年度	85,307	▲3,069	▲3.5	2,453	34,777
平成17年度	86,046	739	0.9	2,446	35,178
平成18年度	88,235	2,189	2.5	2,442	36,132
平成19年度	89,020	785	0.9	2,442	36,454
平成20年度	90,786	1,766	2.0	2,442	37,177
平成21年度	91,642	856	0.9	2,445	37,481
平成22年度	88,061	▲3,581	▲3.9	2,432	36,209

(注)出所:社団法人日本ゴルフ場事業協会調

IV. 平成23年度事業の回顧と展望

平成23年度競技の概況は前述の通り、スクラッチ競技の参加者数は16,016名(前年度比▲1,726名、▲19.6%)、アンダーハンディ競技は19,534名(同+475名、+2.5%)、合計35,550名

(同▲1,385名、▲3.7%)と前年度比較で減少した。アンダーハンディ競技は前年度実績対比で微増したものの、メイン競技のスクラッチ競技は、残念ながらここ数年の減少傾向に歯止めをかけることができなかった。シニア、ミッドアマ両選手権は微減に留まったものの、昨年3月に発生した東日本大震災、原発問題による風評被害の影響により、特に参加申込み期間中であったパ選の参加者数は前年度対比19.6%と大幅減少したが、今なお大変多くのアマチュアゴルファーの参加を得、改めて選手及び会員各位に対して心から謝意を表したい。

創立50周年を機に、「今後の事業活動基本方針」に沿って今後新たな事業分野等を検討するが、基軸事業はあくまでパブリック選手権である点は今後も不変であり、往年の1万人台の参加者数の復活、更には2、3万人と規模拡大を目指したい。

以上

平成24年6月

公益社団法人日本パブリックゴルフ協会
会長(代表理事) 浅井 光昭